



あいち新電力設立による地域活性化

グループ名：エネルギー

メンバー：江藤 政彦、藤光 和真、横井 貴子、渡邊 浩規

チューター：加藤 丈佳、窪田 光宏、杉山 範子

現状の把握(課題認識)

2030年に予想される2つの問題

■人口減少による地域の衰退

- ・地域の伝統文化や特色が消滅する可能性あり
- ・税収減少による地域サービスの低下

	2010年	2030年	指標
日本	128,057,000	116,618,000	91.0%
愛知県	7,410,719	7,213,147	97.0%
三河山間部	10,862	6,697	61.7%

※人口減少の影響で愛知県の7市町村に消滅の可能性がある旨指摘されている

■エネルギーの奪い合いの可能性

- ・新興国のエネルギー消費量が増加
- ・エネルギー価格の高騰

提案の内容

新電力立ち上げによる電力供給

■有効な資源を活用して7000世帯への電力供給が可能

- ・ベースロード電源： 陸上風力、中小水力、バイオマス
- ・ピーク時対応電源： LNG火力

	設備規模	ピーク時供給力	設備稼働率	年間供給量
陸上風力	2,000kW	0kW	20%	3,500MWh
中小水力	900kW	900kW	60%	4,700MWh
バイオマス	2,000kW	2,000kW	50%	8,800MWh
LNG火力	5,000kW	5,000kW	10%	5,300MWh
合計	9,900kW	7,900kW		22,300MWh

※中小水力には既存設備の羽布ダム(900kW)を有効活用する

売電収益の活用方法

初年度収益118,512千円

- ・歳入：年間515,131千円
- ・歳出：年間396,620千円
- ・年間発電量：22,874,400kWh
- ・売電額：22.52円/kWh

地域活性化の財源に

- ・6次産業化の強化
- ・地域の魅力を広報、発信
- ・文化財保存や祭事開催
- ・地域で使えるポイントに

波及効果

■地域の活性化

- ・地域振興策で地域にお金が落ち活性化に貢献
- ・発電所建設工事や維持管理で地域企業にメリット

■電力自給率の向上

- ・現状1.95%の自給率向上に貢献

■県税の増収

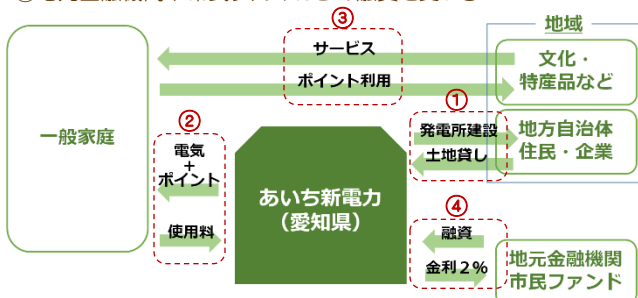
- ・本事業で年間1億円の地域活性化財源を確保

2030年に向けての提言の概要

新電力立ち上げによる地域振興

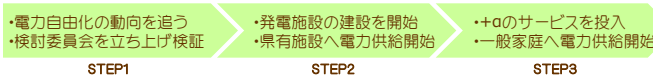
■『電力小売り』+『地域の魅力発信』

- ①愛知県が地域から土地を借りて発電所を建設
- ②あいち新電力は一般家庭に電力を販売
- ③一般家庭は特典として地域のサービスを受けられる
- ④地元金融機関や市民ファンドからの融資を受ける



提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

立ち上げから運営までの基本方針



セットビジネスによる地域振興策について

地域サービス

地域の農産物/加工食品/地酒/工芸品/お土産/地域振興券/公共施設利用券/宿泊券/イベントチケット/etc...

地域の利益へ貢献

地域の認知度向上

一般家庭は自分の好きな商品やサービスを複数の地域から選択可能

■ポイントの仕組み

